

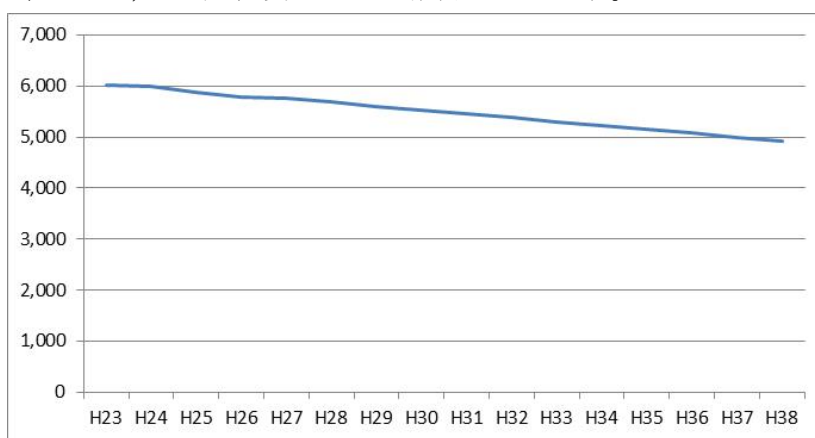
### 3. 将来の事業環境

#### (1) 給水人口の予測

本町では、昭和22（1947）年の臨時国勢調査をピークに、旧大津村西部地区の編入による一時的な増加はあったものの、昭和45（1970）年までの高度成長期に人口が大きく減少、その後一時的に横ばい状態でしたが、昭和60（1985）年以降人口減少が続いており、平成22（2010）年には5,977人となっています。

国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、今後も人口は減少を続け、平成52（2040）年には3,988人（平成22年から約33%減少）に、平成72年（2060）年には、2,822人（同約53%減少）になるものとされています。

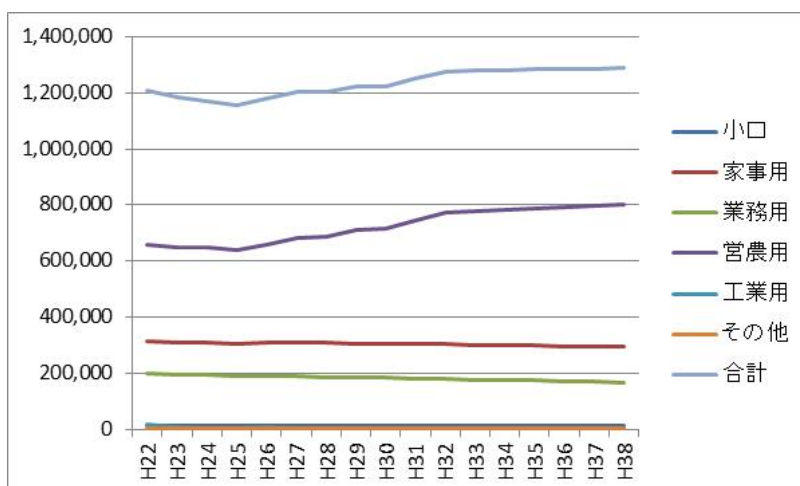
同様に、給水人口についても近年の減少傾向がこのまま推移していくものと想定した場合、平成38年には4,924人程度になると推計しています。



#### (2) 水需要の予測

本町の水需要（有収水量）は、近年は少子高齢化の進展などによる人口減少やライフスタイルの変化に加え、節水意識の高まりなどを要因として飲用水は減少傾向にありますが、一部畜産農家の法人化に加え、個人の酪農経営者も規模拡大の傾向にあり、本計画期間内における水需要は微増の傾向にあると考えられます。

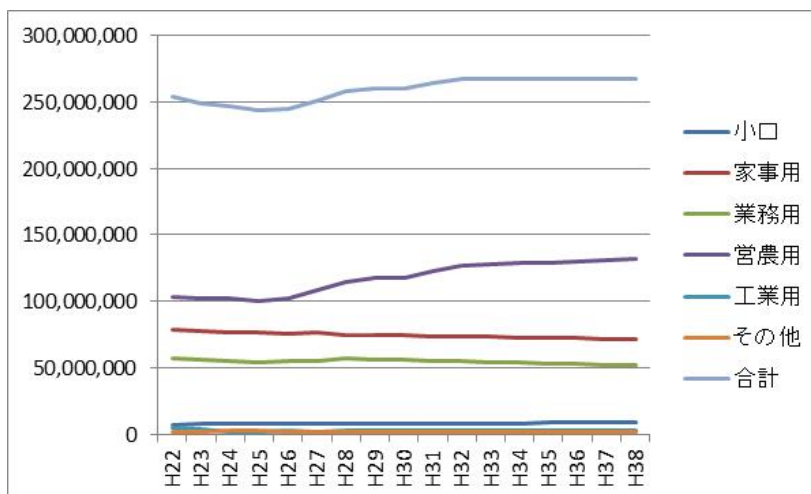
一方、平成28年台風10号による断水を教訓として、水需要の多い営農用契約等の利用者では、自家水（井戸水）の利用を図る計画があることも考慮する必要があります。



### (3) 料金収入の見通し

料金収入については、平成17年3月に大幅改定を行いました。その後は平成26年8月に消費税の取り扱いを内税から外税とすることにより、使用料の確保に努めています。

今後は、給水人口の減少に比例して料金収入も減少する見込みですが、営農用に利用される有収水量が増加の傾向となることが予想される反面、営農用の使用料は安価に設定しているため、給水収益は緩やかにではあるが増加すると考えられます。



### (4) 施設の見通し

平成28年度に、主要施設も含めた管路耐震化・更新計画を策定中ですが、計画期間中に施設の更新期は到来せず、終期に昭和40年代に布設した管路の計画定期的な更新が始まるものと見込んでいます。

#### 《浄水場施設等》

施設関連は、平成28年に策定中の管路耐震化・更新計画による、2次耐震診断実施の優先順位にもとづき、診断を実施したうえで年次計画を策定し、改築、更新を行っていくものとします。

#### 《管路》

本町の管路は統合前からの管路が多く、老朽化が進んでいるため計画的な更新が必要となっています。老朽化した施設を放置しておくと、大規模な漏水事故に繋がり、広範囲の断水が発生する恐れがあります。

漏水事故が頻繁に発生していた拓北地区などの老朽管については、平成28年度から更新に着手していますが、施設全体の管路耐震化・更新計画は平成28年度に策定し、地震等における被害を想定したうえで、病院、災害対策本部、避難所等の重要施設への給水ルートを確保するために優先順位を検討し、更新を行っていきます。なお、管路の更新にあつては、耐震管を使用することにより、地震における給水の確保を行います。

○水道管の整備延長

基準	2017	耐用年数	40
西暦	和暦	延長	経過
1966	S 41		51
1967	S 42		50
1968	S 43		49
1969	S 44		48
1970	S 45		47
1971	S 46		46
1972	S 47		45
1973	S 48		44
1974	S 49		43
1975	S 50		42
1976	S 51		41
1977	S 52		40
1978	S 53		39
1979	S 54		38
1980	S 55		37
1981	S 56		36
1982	S 57		35
1983	S 58		34
1984	S 59		33
1985	S 60		32
1986	S 61		31
1987	S 62		30
1988	H 63		29
1989	H 1		28
1990	H 2		27
1991	H 3		26
1992	H 4		25
1993	H 5		24
1994	H 6		23
1995	H 7		22
1996	H 8		21
1997	H 9		20
1998	H 10	2,791.67	19
1999	H 11	746.00	18
2000	H 12	3,550.47	17
2001	H 13	5,206.57	16
2002	H 14	199.62	15
2003	H 15		14
2004	H 16		13
2005	H 17	194.04	12
2006	H 18		11
2007	H 19		10
2008	H 20		9
2009	H 21		8
2010	H 22		7
2011	H 23		6
2012	H 24	397.54	5
2013	H 25		4
2014	H 26	3,537.67	3

送水管

年度	和暦	延長	経過
1966	S 41		51
1967	S 42		50
1968	S 43		49
1969	S 44		48
1970	S 45		47
1971	S 46		46
1972	S 47		45
1973	S 48		44
1974	S 49		43
1975	S 50		42
1976	S 51		41
1977	S 52		40
1978	S 53		39
1979	S 54		38
1980	S 55		37
1981	S 56		36
1982	S 57		35
1983	S 58		34
1984	S 59		33
1985	S 60		32
1986	S 61		31
1987	S 62		30
1988	H 63		29
1989	H 1		28
1990	H 2		27
1991	H 3		26
1992	H 4		25
1993	H 5		24
1994	H 6		23
1995	H 7		22
1996	H 8	22,879.54	21
1997	H 9	564.32	20
1998	H 10	13,169.70	19
1999	H 11	6,308.28	18
2000	H 12	3,550.47	17
2001	H 13	5,206.57	16
2002	H 14	199.62	15
2003	H 15		14
2004	H 16		13
2005	H 17	194.04	12
2006	H 18		11
2007	H 19		10
2008	H 20		9
2009	H 21		8
2010	H 22		7
2011	H 23		6
2012	H 24	397.54	5
2013	H 25		4
2014	H 26	52,470.08	3

配水管

年度	和暦	延長	経過
1966	S 41	326.00	51
1967	S 42		50
1968	S 43		49
1969	S 44		48
1970	S 45		47
1971	S 46		46
1972	S 47		45
1973	S 48		44
1974	S 49	5,461.00	43
1975	S 50	5,397.00	42
1976	S 51	4,081.00	41
1977	S 52	14,543.04	40
1978	S 53	15,536.45	39
1979	S 54	24.00	38
1980	S 55		37
1981	S 56	155.00	36
1982	S 57	1,117.00	35
1983	S 58		34
1984	S 59		33
1985	S 60		32
1986	S 61		31
1987	S 62		30
1988	H 63		29
1989	H 1		28
1990	H 2		27
1991	H 3	57.50	26
1992	H 4	1,487.12	25
1993	H 5	602.07	24
1994	H 6	4,217.21	23
1995	H 7	1,730.52	22
1996	H 8	30,717.89	21
1997	H 9	929.70	20
1998	H 10	2,919.34	19
1999	H 11	470.20	18
2000	H 12	4,046.91	17
2001	H 13	3,917.70	16
2002	H 14	3,098.75	15
2003	H 15	282.43	14
2004	H 16		13
2005	H 17	567.96	12
2006	H 18	143.70	11
2007	H 19		10
2008	H 20		9
2009	H 21		8
2010	H 22		7
2011	H 23		6
2012	H 24		5
2013	H 25	175.48	4
2014	H 26	102,004.97	3

配水管

年度	和暦	延長	経過
1966	S 41	1,731.83	51
1967	S 42	155.00	50
1968	S 43	95.00	49
1969	S 44	1,332.09	48
1970	S 45	131.00	47
1971	S 46	159.00	46
1972	S 47	248.00	45
1973	S 48	2,592.94	44
1974	S 49	1,970.15	43
1975	S 50	190.00	42
1976	S 51	770.70	41
1977	S 52	25,124.22	40
1978	S 53	4,269.90	39
1979	S 54	1,716.00	38
1980	S 55	1,582.00	37
1981	S 56		36
1982	S 57	280.00	35
1983	S 58	1,236.00	34
1984	S 59	1,927.00	33
1985	S 60	2,956.13	32
1986	S 61	718.00	31
1987	S 62	158.00	30
1988	H 63	406.50	29
1989	H 1	1,448.10	28
1990	H 2	2,311.89	27
1991	H 3	5,411.78	26
1992	H 4	2,754.69	25
1993	H 5	1,698.92	24
1994	H 6	1,884.49	23
1995	H 7	7,167.20	22
1996	H 8	33,254.78	21
1997	H 9	2,423.50	20
1998	H 10	4,769.03	19
1999	H 11	2,005.41	18
2000	H 12	1,553.03	17
2001	H 13	2,829.06	16
2002	H 14	32,415.31	15
2003	H 15	900.09	14
2004	H 16	599.41	13
2005	H 17	1,010.22	12
2006	H 18	85.00	11
2007	H 19	635.13	10
2008	H 20	468.90	9
2009	H 21	1,145.92	8
2010	H 22	1,685.32	7
2011	H 23	767.72	6
2012	H 24	1,419.73	5
2013	H 25	500.15	4
2014	H 26	882.30	3

合計

和暦	延長	経過	計
S 41	2,057.83		
S 42	155.00	50年以上	2,212.83
S 43	95.00		
S 44	1,332.09		
S 45	131.00		
S 46	159.00		
S 47	248.00		
S 48	2,592.94		
S 49	7,431.15		
S 50	5,587.00		
S 51	4,851.70	50年未満	
S 52	39,667.26	40年以上	62,095.14
S 53	19,806.35		
S 54	1,740.00		
S 55	1,582.00		
S 56	155.00		
S 57	1,397.00		
S 58	1,236.00		
S 59	1,927.00		
S 60	2,956.13		
S 61	718.00	40年未満	
S 62	158.00	30年以上	31,675.48
H 63	406.50		
H 1	1,448.10		
H 2	2,311.89		
H 3	5,469.28		
H 4	4,241.81		
H 5	2,300.99		
H 6	6,101.70		
H 7	8,897.72		
H 8	86,852.21	30年未満	
H 9	3,917.52	20年以上	121,947.72
H 10	23,649.74		
H 11	9,529.89		
H 12	9,150.41		
H 13	11,953.33		
H 14	35,713.68		
H 15	1,182.52		
H 16	599.41		
H 17	1,772.22		
H 18	228.70	20年未満	
H 19	635.13	10年以上	94,415.03
H 20	468.90		
H 21	1,145.92		
H 22	1,685.32		
H 23	767.72		
H 24	1,817.27		
H 25	675.63		
H 26	882.30	10年未満	7,443.06
	319,789.26		319,789.26

## (5) 組織の見通し

町の行財政改革に基づく職員数の削減や、組織のスリム化の取り組みに伴い、水道事業においても事業の効率化を行う上で、事業運営に必要な施設の管理業務を民間事業者へ委託することにより、職員数の削減を行っています。

水道事業の開始当初は、事務職、技術職合わせて6名体制でしたが、平成14年度を境に下水道業務も所管することで、配置職員数は維持しているものの、実質職員数は3名と半減しています。

このことから、実質職員数の減少による影響は若手技術職員の不足や、職員の専門的知識の低下につながり、職員数のみならず、適正な年齢構成や職員の能力確保の必要性を踏まえ、水道事業を将来にわたって安定して持続させるために、職員数の見直しも含め水道事業に精通した職員の育成と組織力の強化に取り組まなければならないと考えます。

○職員数の推移

